

授業科目名	観光経営学	担当教員	高橋 一夫
必修の区分	選択		
単位数	1単位		
授業の方法	講義		
開講年次	1年 第3クォーター		
講義内容	<p>経営学が主に対象とするのは、「企業」や「会社」といった組織であり、その理解は組織を適切にマネジメントするための基礎となる。観光分野においても、情報提供や予約・決済を担う旅行会社、観光地への移動手段を提供する航空会社・鉄道会社、温泉や食事を通じて滞在価値を生み出す旅館、その土地ならではの体験を提供するアクティビティ事業者など、多様な企業が観光体験を支えている。では、これらの企業の経営者はどのように組織を設計し、どのような方法で従業員のモチベーションを維持しているのだろうか。</p> <p>本講義では、経営学の基本的な理論・概念・フレームワークを概観し、それらを観光関連企業の実態に照らしながら学ぶ。観光産業特有の組織運営やサービス提供の特徴を理解し、観光経営に必要な視点と分析力を身につけることを目指す。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営学の基礎的な理論・概念・知識を理解し、主要な内容を自らの言葉で説明できる。 2. 観光関連企業に特有の組織運営・サービス提供・人材マネジメントの特徴を理解し、実務に結びつく形で整理できる。 3. 観光関連企業が直面する現状や課題を把握し、理論と事例を踏まえて解決の方向性について建設的に議論できる。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観光経営の基礎－ヒト・モノ・カネをどう扱うか 2. サービス経営のマネジメント 3. 経営戦略と競争戦略－組織経営の理念と戦略の設計－ 4. 授業3の議論をもとにケースの紹介（スターバックスなど） 5. 第三セクター（地方公私合同企業）のマネジメント 6. 授業5の議論をもとにケース紹介（DMOなど） 7. インセンティブシステムとリーダーシップ 8. 授業7の議論をもとにケース紹介（黒川温泉、ハウステンボスなど） 9. サービス人材のマネジメント 10. 授業9の議論をもとにケース紹介（リッツカールトン大阪など） 11. レジャー企業の多角化のマネジメント 12. 授業11の議論をもとにケース紹介（温浴施設・カラオケなど） 		
事前・事後学習	<p>予習：参考文献から対応ページを連絡するので、一読しておくこと。 復習：講義資料のキーワードを再度学びなおしておくこと。</p>		
テキスト	<p>毎回講義資料を準備する。</p>		

参考文献	加護野忠男、吉村典久編著『1からの経営学第3版』2021年、碩学舎 伊藤宗彦、高室裕史編著『1からのサービス経営』2010年、碩学舎 岡本伸之編著『観光経営学』2013年、朝倉書店 上林憲雄他著『経験から学ぶ経営学入門第2版』2018年、有斐閣ブックス
成績評価の基準	定期試験 70%、授業中課題 30%
履修上の注意 履修要件	観光産業分析とセットで受講することが望ましい（必須ではない）。
実践的教育	該当しない。
備考欄	定員超過の場合、抽選により履修者を選定する。